
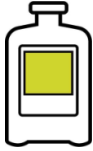



short-CDDP+PEM療法

～ 治療スケジュール ～

お薬の名前	1日目	2～21日目
●アロキシ ●デカドロン ●プロイメンド	 15分	お休み
アリムタ (ペメトレキセド)	 10分	
シスプラチン	 60分	

治療中の注意点

点滴部位に強い痛みや腫れ、かゆみを感じた場合はお知らせ下さい。

気分が悪い、寒気、動悸、息切れ、顔や体がかゆいなどの症状が現れた場合はお知らせ下さい。

処方される支持療法薬

■アリムタの副作用軽減の目的で使用します

葉酸（パンビタン）…1日1回 連日内服します。

ビタミンB12（メチコバル注）…9週間毎に1回 筋肉内注射します。

起こりやすい副作用

■白血球・好中球減少

白血球は体内へ進入した細菌から体を守る重要な役割があります。

治療開始後1～3週間頃に最も少なくなり、菌やウイルスに感染しやすくなります。

⇒日頃から手洗い、うがいなどの感染対策を行い、白血球が少ない時期は人ごみを避けましょう。

■貧血

副作用による貧血の場合、めまい、ふらつき、倦怠感、息切れ、動悸などの症状があらわれることがあります。

場合によっては、薬で治療をしたり、輸血をすることもあります。

■血小板減少

血小板は出血した時に血を止める働きがあります。

血小板が少なくなると、歯肉からの出血や内出血、鼻血などが起こりやすくなります。

⇒血小板が少ない時期は、ケガをしないように注意して下さい。

■ 悪心・嘔吐・食欲不振

個人差の大きい副作用です。治療薬や症状に合わせて吐き気止めを使います。

食事や水分がとれない、または、1日4回以上吐いた場合は連絡してください。

⇒食欲がなくても、脱水を防ぐため水分はしっかりとるようにして下さい。また、無理せず食べたいものを食べられる量だけ取るようにしましょう。

■ 倦怠感

治療開始2、4日後にだるい、体が重い、疲れやすいといった症状があらわれることがあります。

⇒適度に休息を取ったり、無理せず安静にしましょう。

■ 腎機能障害（シスプラチン用）

抗がん剤の影響で腎臓がうまく働かなくなることがあります。

腎臓の働きが悪くなると、尿量の低下、動悸、息切れ、むくみ等の症状が出る場合があります。

また、お薬が体内から抜けにくくなり、副作用が強くなる場合があります。予防のために大量に点滴を行なうことがあります。

また、抗がん剤の点滴中は500mLのペットボトル3本ぐらいを目安に水分をとりましょう。

■ 皮疹

皮膚が赤くなったり、かゆみをとまなうことがあります。

症状が強く出た場合は、ぬり薬や飲み薬を使うことがあります。

■ 末梢神経障害

治療回数が増えると徐々に手足にしびれや痛み、感覚異常が出てくる場合があります。

治療を終えても、しびれが回復するまで時間がかかることがあります。

⇒字が書きにくい、物をつかみにくいなど日常生活に支障が出た時は、早めに主治医に相談して下さい。

■ 聴覚障害

シスプラチンを繰り返し点滴することにより、高い音が聞き取りづらくなったり、耳鳴りすることがあります。

⇒治療前に比べ、人の話し声が聞き取りにくく感じる時は、主治医に申し出て下さい。

■ 脱毛

お薬の種類や患者さん個人によって違いはありますが、治療開始2～4週間後から抜けやすくなります。

髪以外の部分（まゆ毛、ひげ、体毛など）でも同様におこります。

治療が終了、あるいは脱毛の起こりにくいお薬に切り替えた場合は少しずつですが生えてきます。

⇒脱毛が気になる場合は、医療用かつらやウィッグ、帽子などをお勧めします。

■ 下痢

1日4回以上の排便、もしくは明らかな排便回数の増加がみられた場合は、病院への連絡が必要です。

必要に応じて下痢止めが処方されることがあります。

⇒下痢または軟便の時は脱水を防ぐために、消化に良い物を取り、水分もしっかりとりましょう。

■ 口内炎

治療開始2週間ほどで口の中が痛い、ひりひりする、赤くなるといった症状が出る場合があります。

うがい薬や口腔用の軟膏を使うことがありますが、痛みで食事がとれない場合は、病院へ連絡して下さい。

⇒こまめにうがいや歯みがきをして、口の中を清潔に保って下さい。

！ 連絡をいただきたい症状！

- 38℃以上の発熱があるとき。
- 食事や水分をとれないほどの吐き気や嘔吐があるとき。
- 1日7回以上の下痢があるとき。
- 乾いた咳が続く、または息切れを感じる時。（間質性肺炎）